

報告事項ケ

第26回鳥取県教育審議会の概要について

第26回鳥取県教育審議会の概要について、別紙のとおり報告します。

令和5年3月17日

鳥取県教育委員会教育長 足 羽 英 樹

第26回鳥取県教育審議会の概要について

令和5年3月17日
教育総務課

- 1 日 時 令和5年2月6日(木) 午前10時～正午
- 2 開催方法 対面とオンラインの併用によるハイブリッド形式(会場:白兔会館らいちょうの間)
- 3 出席者 教育審議会委員(22名)
- 4 概 要

(1) 会長選任

委員の互選により塩野谷斉委員が会長に選出され、塩野谷会長が職務代理者に住川英明委員を指名。

(2) 意見交換

以下について、事務局から概要を説明した後に出席委員から意見を伺った。

ア 鳥取県教育振興基本計画の改訂に向けた検討について

国の次期教育振興基本計画(案)、教育に関する大綱等を踏まえ、次期県計画の「基本理念」と基本理念を支える「力と姿勢」及び重点取組、施策項目について意見交換を行った。

<主な意見等> (○: 審議会委員からの意見、●: 事務局からの説明)

- 新しい学習指導要領の総則の中にも明記されているカリキュラム・マネジメントは、地域や子どもたちの実態を踏まえながら家庭や地域と連携して、次代を担う人材をどうつくっていくか。最終的に授業づくりまで含めた学校づくりを全教職員でやっという考え方である。カリキュラム・マネジメントを計画の中に位置付ける必要があるのではないか。また、「ふるさとキャリア教育」について、鳥取県内には既に好事例があるので、それを踏まえることが重要である。併せて、県外から来られた若い先生方が鳥取県に定着するように、ふるさと鳥取への愛着を持っていただくことが必要である。
- 総論として、今、現状の課題感を認識した上で、非常に網羅的に目標等が含まれていて、これは地方自治体の抱えている課題感と、とても似たようなところがあり、非常によくできている。第三期の総点検を踏まえたうえで、第四期の計画にどのように盛り込むかが非常に大事である。前期の評価を基にして、次期の重点的なところ等に取り組んでいくとより効果が高まると思われる。
- 第三期の点検によると、学力向上の取組の面でなかなか伸び切っていないということがある。教科でいけば、英語が少し弱いのではないかとということで、それについて取り組んでいきたいと次期計画では考えている。コロナの関係もあり不登校・いじめ問題、発達障がいの子どもたちや支援の必要な子どもたちへの対応を今後の課題として、第四期計画においては新たに目標3として追加している。また、部活動の地域移行も課題であり、重点的に取り組んでいく。
- 第三期の課題や問題点に対して、第四期はどうかというアプローチの仕方が少し見えにくい。見栄えのよい、耳ざわりのいい資料になっていないか。抱えている問題に対してのアプローチの仕方がやや緩やかではないかと感じる。もう少しわかりやすく直接的な表現のほうがより効果が高いのではないか。
- 「主体的に学ぶ力を育む」であるとか、「多様な教育ニーズに応じた」の内容は本当に価値観が多様化していて、現場ではその多様性にどう手を打っていくかと苦労しているところがある。ここも項目立てていただいているし、中学校の部活動の地域移行についても、項目として入

っており嬉しく思う。

一つ考え方として入れてほしいのは、0歳から18歳までの子どもの育ちという視点が大前提のところに入らないだろうか。学校は年齢で区切られるが、子どもに区切りはなくずっと育っていくので、0歳から18歳まで鳥取県の子どもの育ちをこうやって育てていくんだというベースがあって、その学年の一年間を見るという捉え方ができると繋がりのある考え方になる。

- 今回、改訂の中にも項目として入れさせていただく「鳥取県ふるさとキャリア教育」は教育の基軸として考えて取り組んできているところである。

幼児教育段階から高校、そしてそれから先という、広い子どもたちの育ちを捉えての考え方としている。

- 鳥取県に愛着心、愛郷心をしっかり持っていないと、これから鳥取県を担う人材が育っていない。学校教育も大変重要だが、併せて地域教育、地域の中で人材を育てていくという環境がこれからは大事になってくるのではないかと。

体験をとおして、子どもたちは一つ一つ成長していくので、次期計画では地域で学校と協力しながら地域学校協働活動を一体的に本気で推進していき、子どもたちの愛郷心を育てていくということを盛り込んだ文言をぜひ入れていただきたい。

- 子ども自身が自分の学びや生活をマネジメントしていく習慣づけを低年齢から行っていくこと、子ども一人一人の自己のカリキュラム・マネジメントが次の時代の動きになるかと思う。それに絡めて、ICT端末をどう子どもに活用させるかということ、小学校から高等学校まで子どもたちが端末を使いながら地域の方とも、場合によってはオンラインで協働しながら、自分の学びをずっと蓄積させていく。

そういった中で、地域に対する理解や思いも学びの履歴として入り、自分の将来を考える上での参考資料になる。そういったICT活用も同時に絡めていったらいいと思う。

- 目標の中で理系の立場の記述が、非常に少ないという印象を受けた。科学的なものの見方、考え方というのはとても大切なものと学習指導要領などにもよく出てくる。国の次期計画の概要にもあるように、自らが社会の作り手になるためにはそういった考え方をしっかり持つておくことが重要である。ぜひともそういった観点を盛り込んでいただけるとよい。

- 多様な学びといった時に、オルタナティブな学びの場もあるということが、一部の子どもたちにはすごく安心感に繋がる部分もあったりするのではないかとと思うが、その辺りなどはどのように考えているか。

- 世の中全体としても多様性が大事にされてきており、また、学校においても様々な子どもたちが様々な要因、背景を持ちながら生活している。

そうした状況を踏まえながら、第四期には大きな三番目の柱として「多様な教育ニーズに応じた誰一人取り残さない学びの創造」を採り上げている。

その中でも、(12)「多様なニーズに応える学びのセーフティネットの構築」として示しているが、子どもたちには様々な場があるとやはりいろいろなニーズに対応できる広がりが出てくるのではないかと思う。

いじめ・不登校総合対策センターでは、フリースクールと教育委員会との協議の場を定例会という形で持っており、これまでも意見交換の場を持ってきているところである。こういった視点を新たに、教育振興基本計画の中にも設けていくことにしたいと思っており、さらにしっかりと進めていけたらと思う。

(3) 報告事項

- ア 「鳥取県特別支援教育推進計画（仮称）」（案）について
- イ 「鳥取県人権教育基本方針」第3次改訂（案）について

(4) 資料配布

- ア 県立美術館の進捗状況について